国際・奉仕

草の根国際交流二十年

市岡日本語教室が記念式典

→外国人に日本語を教えること通じて草の根の国際交流に貢献してきた市岡日本語教室の二十周年記念式典＝十月四日、港区民センター

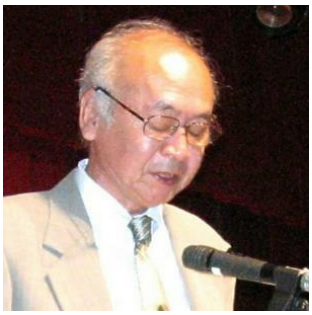
日本で暮らす外国人に日本語を教えることを通じて草の根の国際交流に貢献してきた「市岡日本語教室」が設立から二十周年を迎え、その記念式典が十月四日(日)午後、港区民センターで行なわれました。同教室を運営する「NPO市岡国際教育協会」が主催。外国人学習者約四十人、日本人ボランティア約五十人、一般市区民ら、合わせて百数十人が参加しました。

◆「これからも末永く活動」と理事長

第一部ではスリランカ出身の女性学習者ジャナニさんと男性学習者チェハンさんが「日本語と共に日本の文化や習慣を学べ、国際交流もできています」と日本語で感謝を述べて開会を宣言。吉田徳夫(のりお)・同協会理事長が「二十年間で日本有数のボランティア団体に成長した。今後も地域に根差し、関係団体と連携しながら末永く活動していきたい」と抱負を述べました。

◆「誰もが生き生き暮らせる地域に」と区長

来賓の田端尚伸(たばたひさのぶ)・港区長は「市岡国際教育協会の目的と歴史を読み直し、二十年に亘(わた)る実践に改めて感銘を受けた。定時制廃止という困難を乗り越え、民間ならではの手作りの活動を続け、七夕まつりなど日本文化を楽しむ場も採り入れながら、国際化と多様化の時代にふさわしい地域づくりに貢献されてきたことに心から感謝し、また誇りに思う。区人口の三割(さんわり)、二千三百人は外国籍。クルーズ船で訪れる外国人観光客が増えるなど日常的に外国人と顔を合わせるのが当たり前になってきた中、この活動はますます重要になっている。誰もが理解し合い、生き生き暮らせる地域社会に向けて、皆さんと連携し、努力していきたい」と決意を述べました。



←式典で会発展への抱負を述べる吉田理事長(上)と、地域づくりへの決意を語る田端区長(下)

◆「国際交流にも力」と学習者

同じく来賓の藤田明(あきら)・市会議員は「ボランティアに支えられた民間の取り組み。これこそ大阪のめざす姿。これを二十年前から続けてこら

れたことに敬意を表したい」との市長メッセージを紹介。同教室の活動を長年支援してきた天保山商店会と日本民謡隆勢会には感謝状が贈呈。九年前から同教室で日本語を学んできた王建珍さんが「今後も三十年、五十年と、日本語だけでなく国際交流にも力を尽くして参ります」と決意を述べ、式典を締め括りました。

◆「七転び八起き」とインドネシア男性

第一部の「学習者日本語弁論大会」では、中国、ベトナム、香港、ジャマイカなどから来日した学習者十一人が、学習途上の日本語を駆使して、それぞれの思いや考えを発表しました。

このうちインドネシア出身の男性ナナン・シディックさんは「自分の夢」と題して弁論。日本語を仕事に生かしていること、学習をやめようと思ったこともあったが家族やボランティアの顔、『七転び八起き』という日本の諺を思い出して続けてきたこと―などを語り、「これからもあきらめずに頑張っていきたい」と結びました。

◆「紅葉や桜楽しむ」と台湾女性

また台湾出身の女性羅鈺婷さんは「日本の印象」と題して弁論。日本語を学び始めて三カ月になること、台湾人オーナーのレストランで働いていること、仕事は忙しいが給料が良いので楽しいこと、日本の道はきれいだが台湾の道はゴミが多いこと、日本では電車の中で携帯電話は禁止で飲食はＯＫだが台湾では携帯はＯＫで飲食はできないこと―などを語り、「来年六月に台湾へ帰るが、それまでに紅葉や桜など色んな景色を楽しみたい」と結びました。

←弁論大会で「自分の夢」を語ったナナンさん㊤と、「日本の印象」を語った羅さん㊦

このあと第二部では隆勢会による日本民謡や学習者による民俗音楽・民俗舞踊などのアトラクションが、第四部では親善交流会が催され、関係者の間で親睦を深めました。

◆「夜に学ぶ灯を消すな」と発足

市岡日本語教室は市岡高校定時制廃止反対運動を機に「夜に学ぶ灯を消すな」の合言葉のもと同校定時制同窓会「田龍会」が中心となり九六年に発足。会場は同校会議室や教室でした。同年、運営団体として市岡国際教育協会を設立。九八年、同協会がＮＰＯ法人として大阪府から認可。〇三年、会場を同校同窓会館へ移動。一〇年、港区コミュニティ協会（現大阪市コミュニティ協会港区支部協議会）との共催となり、会場を区民センターに移し、現在に至っています。

◆一対一、会話を楽しむ姿勢で

学習は毎週金曜夜七時～八時半、「先生」役のボランティアが「生徒」役の学習者に一対一で実施。「教える」というより「共に学ぶ」姿勢や「会話を楽しむ」雰囲気を重視。要望があれば日本語能力試験にも対応、毎年多数の合格者を出しています。このほか七夕祭りなど季節の行事も催し、小中高校の総合学習への協力などを通じて地域社会との連携も図っています。

現在、学習者は約七十人。ボランティアは約八十人。応募などの問い合わせは担当の札葉さん（Ｅメール：ｆｕｄａｂａ@ｉｒｉｓ．ｅｏｎｅｔ．ｎｅ．ｊｐ）まで。